

EA121BX-1A スプレーガン(加圧式)取扱説明書

Ver.1.1

このたびは当商品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
使用に際しましては取扱説明書をよくお読みいただきますようお願いいたします。

◆ 仕 様

- 塗料供給方式…加圧式
- 吐出空気量…175ℓ/min
- ノズル径…1.0mm
- 使用圧力…0.2MPa
- 使用コンプレッサー…1.85kw
- (赤、黒)ホース全長…1500mm
- 吸入口…G1/4"
- カップ容量…2.0ℓ
- (赤、黒)ホース内径…6.3mm



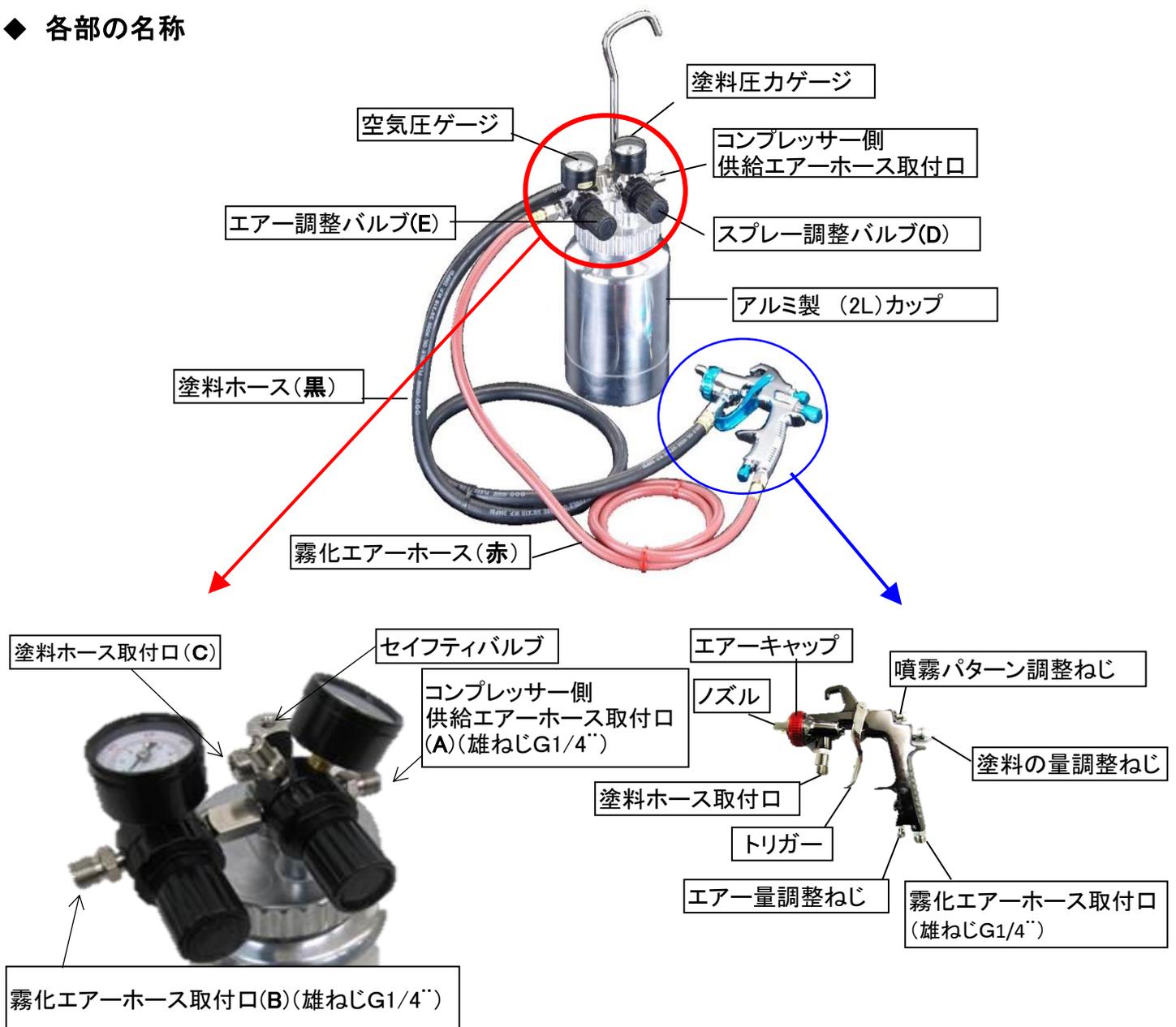
◆ 使用上の注意

- 作業時には作業に適した服装をしてください。ペイント用マスク・保護めがねを着用してください。場合によっては、耳栓やイヤーマフを着用してください。
- 引火点が21℃以下の屋内の塗料や、その他の可燃性流体を噴霧しないでください。スプレーする前に、すべての点火源を消してください。
- 可燃性液体を噴霧する時は爆発や火災の危険があるので換気をよくしてください。
- 静電気等が発生しやすい金属露出部分や、コンプレッサーは爆発性蒸気から最低6m離してください。
- スプレーによる静電が発生します。接地ユニットとスプレー対象物や電気装置において、電源コードを接地されたコンセントに接続する必要があります。
- 噴霧する塗料缶の注意書きに従ってください。
- ホースを急に曲げたり折ったりしないでください。
- 次の場合はスイッチを切り、エアホースを外してください。
 - ① 塗料を入れるとき(補充・交換・捨てる時など)
 - ② 作業終了時
 - ③ 異常を感じたとき
- エア工具を運ぶときは、不用意にスイッチが入ることがあり、危険ですので、エアホースを外してください。
- 自分や他の人にノズルガンを向けないでください。
- ワンタッチカプラーは使用しないでください。激しい振動で外れてしまう恐れがあります。
- ホースはホースバンドでしっかり止めてください。
- 最大圧力は0.35MPa(50PSi)を超えないでください。
- エア工具を使用するときは、取扱方法、作業方法回りの状態を把握して、慎重に作業してください。
- 作業場所や歩く場所は常に整理整頓し、安全で適切な状態を保ってください。
- 作業工具は注意深く手入れをしてください。
エアホース、接続部、スイッチなどは損傷していないか、その他定期的に点検してください。
握り部、スイッチは常に乾かし、きれいな状態を保ってください。
清掃に使用した雑巾、手入れに使った布など燃えやすいゴミは、蓋付の金属製容器に入れ、適切な方法で廃棄してください。
- スプレーガンのホースを引っ張って運ばないでください。
- 子供やその他エアスプレーシステムに精通していない人は、装置や作業場から離れてください。
- 作業前には、可動部の位置、取付け状態、その他運転に影響を及ぼす全ての個所に、異状、損傷がないか確認してください。
- 防爆性の環境内での使用は意図していませんので、絶縁はされていません。
- 溶剤やコーティング材は霧状になると燃えやすい性質があります。
可燃性ガスがたまらないよう、十分換気を行ってください。
作業場所には、タバコや点火バーナー、溶接機など着火原因となるものは置かないでください。
- 作業現場には、消火器を備え付けてください。
- 塩化メチレンなどのハロゲン化水素溶剤は、アルミニウムと化学反応を起こす危険があり、爆発する恐れがあります。使用可能か否か、溶剤のラベルやデータシートで確認してください。

◆ 使用する前に以下のことを確認してください。

- 最大圧力は0.35MPa(50PSi)を超えないでください。
- エアーを流入する前に、ホース、アイボルト、スプレーガン、すべての接続が確実に固定されていることを確認してください。
- 圧力計と圧力調整器が正しく機能することを定期的を確認してください。また、安全弁の吸気口に塗料やその他の付着物がないことを確認してください。圧力ポットに0.35MPa(50PSi)を超え、安全弁が詰まると圧力が高くなり圧力カップが損傷する可能性があります。
- 圧力を調整してください。過剰な圧力がかかるとうまく噴霧されません。
- エアー量調整とスプレー調整が、適切な圧力調整されているかどうか。
- スプレー使用中はエアーキャップが前後に平行移動します。これにより、最大範囲にセットされているか確認してください。
- 塗装パターン
 塗装距離は 15～20cmくらいとってください。
 圧力ポットの耐圧は0.35MPa(50PSi)です。これを超えないようにしてください。

◆ 各部の名称



◆ 使用方法



注意

常に製品の良好な状態を保つ為に、以下の事項のご確認をお奨めします。
交換部品の必要性を減らすだけでなく、タンクを長く使用する事ができます。



警告

- 1.タンクは最大負荷0.35MPa(50PSI)です。最大負荷を超えると爆発の原因になります。
- 2.安全バルブは過圧からタンクを守るように設計されています。
- 3.安全バルブは0.35MPa(50PSI)にセットしています。
使用する前にタンクの中に残圧が無いことを確認してください、あれば放出してください。

- 1.蓋を外して、タンクの横側に置きます。
- 2.アルミ製カップに塗料を入れ、蓋をします。
- 3.エアー吸入口(A)にコンプレッサーからのエアーホースを取り付ける。(各部の名称参照)

—推奨—コンプレッサーからの空気は圧力調整器を通過して空気から汚れをろ過し、含んだ水と油を除去する方が良い。

- 4.霧化エアーホース(赤)を霧化エアー吸入口(B)に接続する。
- 5.塗料ホース(黒)を塗料吐出口(C)に接続する。
- 6.コンプレッサーのバルブを開き、スプレー調整バブル(D)を時計方向に回すと圧力が上がります。
<0.35MPa(50PSI)以上にセットしないでください。>
- 7.エアー調整バルブ(E)を開いて霧化エアーを通してガンのエアー量調整を調整して下さい。
又はガンのエアー調整ねじでも同じ調整が出来ます。
- 8.前ページの画像のようにホースをつなぎます。

◆ クリーニングとメンテナンス

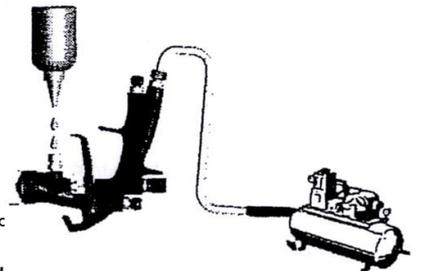
1. ノズルの取外し方法

- ① ノズルを取外す前に、スプレー調整ねじ(1) スプリング(2)、ニードル(3)、ナット(4)を外します。
- ② 付属のレンチかスリーブで取外してください。
**※不適正なツールを使用するとノズルを損傷する場合があります。
適正なツールを使用してください。**



2. ノズルの取付方法

- ① ノズルの取付、スプレー調整ねじのスプリング、ニードル、ナットを取付けます。
- ② 圧縮空気のホースを取付け、ガン塗料ホース取付口に溶剤を滴しトリガーを押します。(ガスを逃がすため)
- ③ 最後に塗料ホース取付口から泡が出るかどうかチェックしてください。
泡が出た場合、取付を再度やり直してください。
泡が出なかった場合、正しく取付けられていますので、使用可能です。



3. エアーガン部分

- ① タンクのサイフォン部分と、ガンの接続部分だけ、溶剤に浸してください。
- ② 固着したペイントは固めのナイロンブラシと溶剤で落としてください。
- ③ 本体を溶剤に漬け込まないでください。
 - a. パッキンのオイル分が溶けてなくなり、パッキンが乾くため
 - b. 本体表面のコートが溶けてなくなり、本体の劣化が速くなるため
 - c. 汚れた溶剤で空気穴がふさがってしまうため
- ④ 溶剤に浸した布でガン本体の汚れを拭き取ってください。
- ⑤ スプレーガンに注油してください。また次の部分にも注油してください。
 - a. 液体ニードルパッキン部分
 - b. エアーバルブパッキン部分
 - c. トリガーの回転軸部分
- ⑥ シリコンの詰まった箇所には注油しないでください。
この箇所への注油は仕上げの支障になります。

4. カップ部分

- ① カップのエア調整バルブを空気圧ゲージが『0』を指すまで反時計周りに回しカップの中の圧力を下げます。
- ② カップの中のサイフォン部分とカップカバーを緩めます。
- ③ エアーノズルを2回回し緩めます。ペンキをカップに戻すため、トリガーを引きます。カップとカップカバーを外します。
- ④ 1/4～1/2カップのきれいな溶剤を入れ、カップカバーを取付け、約69kPa(10PSI)に流体圧力を設定します。
- ⑤ スプレーガンでエア調整バルブを閉じます。
- ⑥ トリガーガンを引いて、溶剤が流れるか確認してください。
- ⑦ 溶剤を捨てエアーノズルを掃除します。ノズルとカップを乾かします。不純物が噴出し口にある場合は、歯ブラシなどできれいにしてください。ワイヤーブラシはノズルを破損しますので、使用しないでください。
- ⑧ カップの中に溶剤が残らないよう注意してください。溶剤の揮発ガスはガスケットの耐用年数を短くする傾向があります。カップとカバーは別々に保管してください。

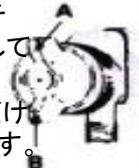


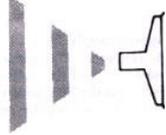
注意 ・カップがひっくり返ったり、大きく傾けられた場合、ペンキがカップカバーからレギュレータ側に漏れることがあります。このような場合、すぐに掃除をしてください。
 ・溶剤は、ペイントの薄め液を使用してください。

5. エアースプレー

- ① エアコンプレッサーの上、またはそばに排油器や排水器を取付けしないでください。空気の圧縮を行なっている間、空気の温度は著しく上昇します。空気が室温まで下がると、空気がスプレーガンに送られる通気管上に結露します。従って、必ず排油器や排水器は、空気供給システムの圧縮空気温度が最も低くなる箇所に取付けてください。
- ② 空気管の排水を正しく行なってください。結露した水分が空気受けに戻るよう、空気全体をコンプレッサーに向けて傾けてください。溜まった水は、空気受けで排水されます。空気管の最も低い箇所に水が溜まります。当該箇所には簡易に取付・取外しができる排水装置を取付けてください。
- ③ 設置
 本品は頑丈な構造をしており、すばらしい性能を発揮するよう作られています。この製品の構造・使用方法・メンテナンス方法を正しくご理解いただいているかどうかにより、製品の寿命と操作効率が変わってきます。
- ④ 重力フィード式カップの取付
 噴霧気圧は、排出装置により調整されます。液体量は、スプレーガン上の調整ツマミ、塗料の粘度および気圧により調整します。

◆ パターン失敗例と直し方

失敗パターン	症状	直し方
	サイドポートAを 乾いたペンキがふさぎ、空気の流れを制限してしまっています。本流がサイドポートBの流れだけになりますのでパターンが偏ります。 	シンナーでサイドポートに固まったペンキを溶かしてください。絶対に穴を金属の針などで突かないでください。

失敗パターン	症 状	直 し 方
	ノズルチップにある、穴(C)の回りに乾いたペンキが付着し、エアノズルの穴をふさぎ、圧力空気の流れを悪くしています。 また、エアノズルの緩みによって	エアノズルをはずして、チップをシンナーに少し浸した布で拭いてください。
	スプリットスプレー、或は中央が途切れてしまう塗装パターンについて (1) 空気圧が高すぎる (2) 薄い塗料で広すぎる面積に吹き付けようとした。	(1) 空気圧を下げてください。 (2) ペンキの流れ込む量を増やし、スプレー調整ネジを右に回してください。塗装面は小さくなりますがスプリットパターンはなくなります。
	(1) ニードルバルブの回りにペンキなどが固着し、空気が流体バルブの方に流れ込んでします。 (2) ノズルと本体のシート部分が汚れている或は、ノズルの締まりがゆるい。 (3) カップのスイベルナットの締まりがゆるい。	(1) ナットが締まっているか確認します。取外して注油し、手で締め直してください。ひどい場合は取替えます。 (2) ノズルをはずし、シンナーに浸した布できれいに清掃してください。 (3) スイベルナットをしっかりと締めてください。

◆ 問題点と直し方

問 題 点	症 状	直 し 方
スプレーパターンが正しくない	① スプレーガンの調整が正しくない ② エアキャップが汚れている ③ ノズルの先端に何か詰まっている ④ ニードルがうまく機能していない	① スプレーガンを注意深く手順に従い再調整する ② エアキャップをきれいにする ③ 清掃する ④ 油を注す
丸くスプレーできない	エア量調整ねじが適切にセットできない	清掃するか取替えてください
スプレーできない	① ガンに圧縮空気がない ② ミックスエアノズルとタンクの圧力が低い ③ 塗料の濃度が噴霧能力より重い ④ スプレー調整ねじが充分開いていない	① スプレーと空気の流れを確認してください ② タンクの圧力を高めてください ③ 塗料を薄めるか、圧力を上げてください ④ スプレー調整ねじを開けてください
ナットパッキングから漏れる	① ナットパッキングが緩んでいる ② パッキングがすりへっている	① 締めなおしてください ただし、ニードルのねじ山が壊れるくらい強く締めないでください ② パッキングを取替えるか注油してください
ノズルの先から塗料が滴り落ちる	① パッキングが乾いている ② ニードルが緩んでいる ③ ナットパッキングが締まっている ④ ノズルかニードルがすりへっている	① 注油してください ② 注油してください ③ 調整してください ④ 取替えてください
うすくて、ざらついた仕上	① ガンが塗装面から離れ過ぎている ② 噴霧圧力が高過ぎる	① 塗装面に近づけてください ② 圧力を調整してください
オレンジの皮のようにデコボコした仕上	塗料面に近づき過ぎている	塗装面から離してください



改造はしないでください。

- 本機の寿命を著しく損ねる場合があります。
- ご使用者が怪我をする場合があります。
- 作業工程に支障を来たす場合があります。

株式会社 エスコ
 本社 / 〒550-0012 大阪市西区立売堀3-8-14
 TEL (06) 6532-6226 FAX (06) 6541-0929

24.Oct.